

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

～ 新聞記事 ～

プレス空知 2013. 5. 11 (土)

東北の物産販売高校生プロジェクト 昨年にも続き今年も

15日に「買って支援、売って支援を」
初会合

【岩見沢】市内の高校生が取り組む東日本復興支援として、昨年はじめた「東北の物産販売高校生プロジェクト」が今年も始動する。昨年同様、東北地方の物産・復興支援商品を購入し、それを高校生が市内イベントで販売。活動支援金として1口500円の協賛を市民や企業・団体に呼びかける。同プロジェクトでは今年15日、広域総合福祉センターで本年度初会合を開くことになっている。



昨年のプロジェクトの様子

被災地から離れていてもできること、高校生でもできることを考え、実行した同プロジェクト。市内の高校生に市社協が協力して活動を展開した。取り組みは、企業や団体などから募った協賛金で、東北地方の特産品や復興支援商品を取り寄せ、ボランティアアフェスティバルや市役所などで販売。商品

の選定や販売は、高校生が担当した。活動の益金34万9815円は「東日本大震災子ども支援ユニesco協会就学支援奨学金」に寄付。昨年末、日本ユニesco協会連盟からは感謝状が贈られた。春を迎え、活動2年

目となる今年。「東北を忘れない、買って支援、売って支援」を標語にプロジェクトが再始動する。形態は、昨年と同じく市内の個人や団体、企業から募った1口500円の活動支援金を原資に東北3県を中心に特産品や復興支援商品を調達する。販売については、多くの市民に復興支援の理解と協力を呼びかけようと、8月開催のボランティアアフェスティバルの会場をメインに市内各所で随時展開する考えだ。プロジェクトの初会合は今年15日を予定。岩見沢農業高をはじめ、市内各高校のボランティア同好会の生徒らが参加を予定。岩見沢高等養護の生徒有志もプロジェクト参加に意欲をみせており、昨年にも増した支援プロジェクトへの成長が期待されている。

【新田一寛】

北海道新聞 2013. 5. 16 (木)



本年度の活動内容を確認した第1回全体会議

被災地支援今年も東北の物産販売

岩見沢の3高と高等養護学校 会議で活動確認

【岩見沢】東日本大震災の被災地を支援するため市内の高校生が東北地方から仕入れた商品を販売し、売上金を「買って支援、売って支援」を目標として頑張ります。活動支援金として1口500円の協賛を市民や企業・団体に呼びかける。同プロジェクトでは今年15日、広域総合福祉センターで本年度初会合を開くことになっている。

実行委員長の鶴岡摩利亜さん（岩見沢3高3年）が「さらにより復興支援を目指して頑張ります」とあいさつ。

から仕入れた食品をボランティアアフェスティバルで販売するほか、学校祭や各種イベントでも販売する。

昨年は市内3校85人が参加しボランティアアフェスティバルなどで商品を販売。売上金約35万円を日本ユニesco協会に寄付し、同協会から3校に感謝状が贈られた。（大川諭）

本年度も実施されることになった。岩見沢、岩見沢、岩見沢の3校に加え、今回は岩見沢高等養護学校も参加する。15日に第1回全体会議が市広域総合福祉センターで開かれ、高校生ら約80人が出席し、金銭や企業や団体などに依頼したり、東北地方

から仕入れた食品をボランティアアフェスティバルで販売するほか、学校祭や各種イベントでも販売する。

昨年は市内3校85人が参加しボランティアアフェスティバルなどで商品を販売。売上金約35万円を日本ユニesco協会に寄付し、同協会から3校に感謝状が贈られた。（大川諭）

昨年は市内3校85人が参加しボランティアアフェスティバルなどで商品を販売。売上金約35万円を日本ユニesco協会に寄付し、同協会から3校に感謝状が贈られた。（大川諭）

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

～ 新聞記事 ～

読売新聞 2013. 5. 17 (金)

プレス空知 2013. 5. 18 (土)

物産販売で復興支援

岩見沢の高校生ら イベントや学校祭で

東日本大震災の被災地を支援するため、岩見沢市の高校生が被災地の物産品を販売する「復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト」に向けた全体会議が15日、岩見沢広域総合福祉センターで開かれた。今年度のプロジェクト概要が固まり、開催に向けてスタートを切った。



プロジェクトの実施に向けてスタートを切った高校生

同プロジェクトは、岩見沢農業、岩見沢緑陵、岩見沢東の3校のボランティア部・同好会の生徒らが「被災地を忘れない」とのメッセージを発信し、東北の物産を購入、販売することを企画。昨年は約35万円の売り上げがあり、全額を日本ユネスコ協会連盟に寄付した。昨年は、8月に行われた「ボランティアフェスティ

バル」会場での販売が中心だったが、今年は同イベント会場での販売のほか、学校祭や様々なイベント、市役所などでのミニ販売会も行うことにした。15日の全体会議には約100人の生徒が集まり、総務・広報、装飾・宣伝、展示、財務・会計などの担当に分かれて検討に入った。今後、東北のどういった

内の団体・企業から支援金を募る予定だ。実行委員長は鶴飼摩利亜さん(岩見沢農業3年)は

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

「前年の経験を生かし、復興の力になれるよう頑張っていきたいと思います」とあいさつした。

被災地復興支援

高校生プロジェクト始動

百人参加 7月から販売開始

【岩見沢】市内の高校生が東北の被災地復興支援に取り組むプロジェクトの本年度初会合が15日、広域総合福祉センターで行われた。約100人の高校生が集まり、役割分担と今後の作業手順を打ち合わせた。ボランティアフェスティバルに出店するほか、7月から学校祭や市内各所のイベントなどで販売活動を展開することを確認した。



プロジェクトの実施に向けてスタートを切った高校生

昨年に続く2年目の取組。今年も東、緑陵農業のほか、高等養護が活動の輪に加わった。活動は昨年同様、市民や団体などから協賛金を募って東北地方の特産品や復興支援品を

購入し、市内イベント等で販売するシンプルな活動。昨年の反省から、前売券は廃止。8月のボランティアフェスティバルをメイン販売会とし、学校祭や市役所、イベントでミニ販売会を開く。売上金はユネスコを通じて被災地の就学支援奨学金に寄付する。初会合では、実行委員長は鶴飼摩利亜さん(岩見沢農業3年)が「よい支援を目指し、被災地の復興の大きな力になるよう、力を合わせて頑張ろう」と呼びかけた。このあと、参加した高校生は宣伝、商品説明、財務会計など各自が所属する7つのグループに分かれて打ち合わせ、7月からの販売開始に向けた作業分担などを話し合った。

【新田一寛】

【新田一寛】

【新田一寛】

【新田一寛】

北海道新聞 2013. 6. 13 (木)

東北の物産 12種類販売



岩見沢の高校生 月内に資金集めも

【岩見沢】昨年に続いて開かれる「復興支援東北の物産販売高校生プロジェクト」の第1回チーム長会議が12日、岩見沢広域総合福祉センターで行われ、総務や宣伝など15のチーム担当者が販売品目などを確認した。プロジェクトは東日本大震災の被災地を支援するため市内の高校生が東北地方から仕入れた商品を販売し、売り上げを寄付する取り組み。岩見沢、岩見沢高等養護

の4校から約1000人が参加する。この日は各チームの代表者ら22人が集まり、販売品目や仕入れ個数、活動支援金集めの担当などについて話し合った。取り扱うのは岩手の「天使のしょうゆ」や宮城の「ずんだ生ジャム」、福島の「やわらかきなこねじり」など。

(鹿内朗代)

(鹿内朗代)

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

～ 新聞記事 ～

北海道新聞 2013. 7. 7 (日)

被災地の物産 学校祭で販売



来場者(右)に東北から仕入れた商品を販売する岩東高生

岩東高生 売り上げは寄付

【岩見沢】市内の高校生が東日本大震災の被災地支援に取り組む「東北の物産販売高校生プロジェクト」で、岩見沢東高生が6日、学校祭で東北の商品を販売し、売り上げを寄付する取り組み。

岩東高では、宮城の「ずんだ生ジャム」、岩手の「いかせんべい」、福島の「やわらかきなこねじり」の3品を販売、購入者に被災地へのメッセージを「震災を決して忘れず、書いてもらった。同校支援を続けていくこと」は、私たちにも良い経験になります」と話し、東北の物産販売は今月中の各校の学校祭でも行われる。(大川諭)

高校東北支援プロジェクト 7月の岩東祭から販売



【岩見沢】東北復興支援を目指す高校生プロジェクトは12日、広域総合福祉センターで担当部門ごとのチーム長会議を開いた。写真。来月からの販売開始に向けて、取扱商品や数量の確認、活動支援金の依頼担当と日程調整などを話し合った。

震災復興に一役買うと市内高校生の有志

＝岩東祭に「出店」＝ 東北の特産物を高校生が支援販売



【岩見沢】市内高校生有志による、東日本復興支援高校生プロジェクトは6日、岩東祭のバザー会場を皮切りにスタート。被災地の

現在を紹介するパネル展も開設し、来場者の関心を集めた。昨年同様、2年目の取り組みとして展開

するもの。今年は岩見沢東、岩見沢農業、岩見沢緑陵、岩見沢高等の生徒有志が参加。ボランティアフェ

このほか、6、7日

岩東祭で、東北地方の特産品を販売する生徒たち

会場に併設した写真パネルも関心を集め、震災の脅威を再確認した表情を見せる来場者もいた。

その第一弾となったのが岩東祭。バザーを開いたら、6の両日で販売会を行う中で、趣旨を理解した生徒や保護者が次々と買い求めていった。

また、東北各県の特産品などを仕入れたため、市内各所に足を運んで活動支援金を募るための担当を決めた。主体的に活動する高

プレス空知 2013. 6. 15 (土)

が集まり、東北地方の物産品を仕入れ、販売し、益金を就学支援に寄付する活動。2年目の今回は、岩東、緑陵、岩農のボランティア部のほか、高等養護学校の生徒会も参加して取り組む。

この日の打ち合わせでは、グループごとの

作業進捗状況を確認したほか、7月からの販売日程と取扱商品、数量などを最終確認した。

また、東北各県の特産品などを仕入れたため、市内各所に足を運んで活動支援金を募るための担当を決めた。主体的に活動する高

校生をサポートする各校の教諭は「来月から本格的に販売がスタートする。段取り良く今月中に準備を完了させよう」と声をかけていた。

販売会は7月5・6日の岩東祭からスタート。8月25日のボランティアフェスティバル

まで8会場販売することを決めたほか、9月以降にも各所で販売を計画している。

【新田一寛】

プレス空知 2013. 7. 10 (水)

には夕張市内で行われたボランティア関係団体のイベントでも岩農生らが参加し、会場販売を行った。

【新田一寛】

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

～ 新聞記事 ～

生徒の作品に人気 高等養護学校祭



大勢の人たちで賑わった手作り品の展示即売コーナー

【岩見沢】岩見沢高等養護学校（矢野潤校長）の第33回学校祭が19、20の両日、同校で開かれ、20日は一般公開とあって大勢の人たちで賑わっていた。地域の人たちにも気軽に参加してもらおうと、ポップコーンなどをプレゼントするチラシを配布しての学校祭。今夏、写真甲子園出

プレス空知 2013. 7. 17 (水)

岩農で学校祭 実習製造品販売人気



大勢の人で賑わった模擬店

【岩見沢】岩見沢農業高（西田丈夫校長）は、12、13日に学校祭を開催。13日の一般公開では、趣向を凝らしたパフォーマンスを披露した。

このほか、模擬店で「実習製造品の販売などを行った。今年、岩農祭は「岩農魂！ファイバスの神にいつ届けるの？今でしょ！」がテーマ。13日の一般公開では、体育館でクラスごとのステージパフォーマンスが行われたほか、校舎前庭や駐車場では模擬店や学科展示販売が行われ、大勢の人で賑わった。

プレス空知 2013. 7. 24 (水)

プレス空知 2013. 7. 17 (水)

緑が丘「ワッシヨイ祭り」



北海道新聞 2013. 8. 23 (金)

東北支援へ物産販売

25日催し 高校生が準備会議

岩見沢

【岩見沢】駅東市民広場公園などで25日に開かれる「ボランティアフェスティバル」に、東北の物産販売に取り組む高校生による全体会議が22日、岩見沢広域総合福祉センターで開かれ、最終打ち合わせを行った。物産販売には「第2回復興支援東北の物産販売高校生プロジェクト」と銘打ち、岩見沢農業高ボランティア同好会、岩見沢緑陵高ボランティア部、岩見沢東

70人が出席した会議では、実行委員長の鶴銅摩利亜さん（岩農高3年）が「プロジェクトに協力していただきたい皆さんのためにも、頑張らしましょう」とあいさつ。販売する商品や各自の役割、注意点を確認した。これまで16団体から計55万8500円を活動支援金として集め、各校の学校祭などで11品目650品（24万8350円）を販売。25日のボランティアフェスティバル（午前10時～午後3時）では、岩手の塩サイターや宮城の牛タンジャーキーなど12品目588品（1500～650円）を販売するほか、東北の今を伝える写真パネルなどを展示する。（大川諭）



25日に販売する商品をPRする高校生たち

ゲームを楽しむ参加者たち



ムなどが行われ、子どもから高齢者まで幅広い世代の来場者が笑顔で満喫。壊れたおもちゃを直す「おもちゃの病院」や縁日コーナーもあり人気を集めた。このほか、地元高校生が東日本大震災被災地の特産品を販売する復興支援のブースが設けられ、来場者が立ち寄って購入。屋内では陶芸教室やラオケ、ダンス交流会なども行われ、笑顔の輪が広がっていた。作田会長は「一人出は昨年より多いくらいで本当に良かった。お祭りを楽しみながら世代間交流、地域住民との交流を深め、心のきずなを大切にしてもらおうと頑張りたい」と話していた。【末永直樹】

地域住民も参加 ゲームなど交流

老く連ふれあいまつり

【岩見沢】岩見沢市老人クラブ連合会（作田重行会長）は3日、市高齢者福祉センターで「第20回ふれあいまつり」を開いた。地域住民らが大勢訪れ、互いに交流しながらゲームなどを楽しんだ。毎年恒例の同会「三景品をゲットするゲーム」を丸い網の的に放つて景品をゲットするゲーム

プレス空知 2013. 8. 7 (水)

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

～ 新聞記事 ～

「買って支援 売って支援」

岩見沢 高校生が東北物産販売

【岩見沢】「第2回い、買って支援、売って支援、東北の物産販売高校生プロジェクト」の販売会が25日、昨年に続き2回目。岩見沢市市民広場公園で行われた。時折、激しい雨に見舞われる中、高校生が企業や個人から活動支援金を募り、東北3県の企業・団体から仕入れた商品を販売した。悪天候のため、来場者は少なかつたが、高校生は手作りのチラシを配ったり、専用テントで、東北の今を伝える写真パネルを展示。商品購入者には生産者に送るメッセージを書いてもらった。仕入れた分の8割(477点、16万6200円)を売り上げた。残りの商品も販売会を開くなどして完売させる。



岩見沢市市民広場公園で行われた。時折、激しい雨に見舞われる中、高校生が企業や個人から活動支援金を募り、東北3県の企業・団体から仕入れた商品を販売した。悪天候のため、来場者は少なかつたが、高校生は手作りのチラシを配ったり、専用テントで、東北の今を伝える写真パネルを展示。商品購入者には生産者に送るメッセージを書いてもらった。仕入れた分の8割(477点、16万6200円)を売り上げた。残りの商品も販売会を開くなどして完売させる。

北海道新聞 2013. 8. 27 (火)

実行委員長で岩見沢高3年の齋藤利亜さん(18)は「昨年の経験が、かいがあつた」と振り返り、スムーズに取り組みすることができた。売

(大川諭)

東北物産売り復興支援

岩見沢の高校生ボランティアフェスで

東日本大震災の被災者を支援するため、岩見沢市内の高校生が東北の加工食品を販売する「復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト」が25日、JR岩見沢駅横の公園で開催された。高校生プロジェクトは昨年、続いて2回目、同日開催された「第30回ボランティアフェス」の一環で参加した。「震災から2年以上たつても被災地復興を忘れずに支援し続けていこう」と、岩見沢農、岩見沢緑陵、岩見沢東の3校のボランティア部・同好会と、岩見沢高等養護学校生徒会の生徒が参加した。



復興支援のため東北の物産を販売する高校生ら

25日は時折強い雨に見舞われたものの、仮設テントのコーナーには多くの市民が訪れ、商品を買ってほしい。高校生は、これまで各学校祭などでもミニ販売会を開いて約25万円分を売

読売新聞 2013. 8. 27 (火)

関係奉仕団体一堂に

ボランティアフェス盛況

【岩見沢】今年で節目となる第30回ボランティアフェス(実行委主催)が24、25の両日、イベントホール赤れんが・駅東市民広場公園で行われた。あいにくの雨模様の中で、規模は縮小したものの飲食や雑貨などの模擬店が軒を連ねたほか、赤れんがの会場内には30年の歴史を振り返るパネル展も開催。AEDや人工心肺蘇生、手話などのふれあい体験コーナーにも行列ができた。ステージなどでは、保育園児や高齢者の和太鼓演奏、ハンドベルや手話コーラスが繰り広げられた。このほか駅東広場では、ミニ動物園のほか、高校生による東日本復興支援プロジェクトも昨年に引き続き行われ、大勢の来場者が東北産の商品を買っていった。

【新田一寛】

プレス空知 2013. 8. 28 (水)



昨年に引き続き、東日本大震災を支援しようと市内の高校生が東北物産の販売に取り組んだ